

教育・保育施設 認可外保育施設等における

事故防止及び対応 マニュアル

～施設編～



新潟市こども未来部保育課

平成29年8月

はじめに

全国的に、教育・保育施設や認可外保育施設等（以下「施設等」という。）における子どもの死亡などの重大事故は、残念ながら毎年発生しています。

日々の教育・保育においては、乳幼児の主体的な活動を尊重し、支援する必要があり、子どもが成長していく過程でケガが一切発生しないことは現実的には難しいと考えます。

そうした中で、施設等における事故、特に死亡や重篤な事故の発生防止に加え、万が一発生した場合の事故後の適切な対応が重要となります。

平成27年4月に施行された子ども・子育て支援新制度においては、「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準」（平成26年内閣府令第39号）第32条第1項第1号及び第50条の規定において、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業者は、事故が発生した場合の対応等が記載された事故発生防止のための指針を整備することとされています。

このことを踏まえ、施設等が遵守すべきものとして、平成28年3月31日「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインについて」を参考に、本マニュアルを作成しました。

本マニュアルをもとに、日頃から施設等での体制を整備し、子どもの重大事故の発生防止に努めると共に事故発生時には、迅速かつ適切な対応をとられますようお願いいたします。

平成29年8月

新潟市こども未来部保育課

目 次

I 事故防止のための取組み

1 事故の発生防止（予防）のための取組み

（１） 安全な教育・保育環境を確保するための配慮点等	2
（２） 重大事故が発生しやすい場面	3
（３） 事故予防対策	6
（４） 緊急時の対応体制の確認・周知	8
（５） 職員の資質向上	8
（６） 安全教育	9

2 事故の再発防止のための取組み

（１） 再発防止策の策定	10
（２） 職員等への周知徹底	10

II 事故発生時の対応

1 事故発生直後の対応

（１） 事故への対応	12
（２） 重大事故等への対応	14
① 事故の記録	18
② 保護者等への対応	18
③ 事故後の検証	19

資料編・事故報告様式

子どもの発達が目安と起こりやすい事故	2
施設安全点検表 1	3
遊具（園内外）安全点検表 2	4
保育室安全点検表 3	5
睡眠チェック表（5分チェック）	6
睡眠チェック表（10分チェック）	7
睡眠チェック表（15分チェック）	8
睡眠チェック表（20分チェック）2歳児用	9
睡眠チェック表（20分チェック）3歳以上児用	10

園外保育チェックリスト	11
お散歩園児数確認メモ	11
お散歩行ってきますカード	12
ヒヤリ・ハットの記録	13
0歳児クラス用 事故防止チェックリスト	14
1歳児クラス用 事故防止チェックリスト	16
2歳児クラス用 事故防止チェックリスト	18
3歳児クラス用 事故防止チェックリスト	21
4歳児クラス用 事故防止チェックリスト	24
5歳児クラス用 事故防止チェックリスト	27
緊急時の役割分担	30
病院緊急連絡先	31
救急車の呼び方 119番通報	32
災害報告書【様式1】	33
受診結果及び事故防止具体策【様式2】	34
事故の経過報告書【様式3】	35
園児の事故報告書【様式4】	36
教育・保育施設等 事故報告様式	37
教育・保育施設等 事故報告様式【事故再発防止に資する要因分析】	38

I 事故防止のための 取組み

(1) 安全な教育・保育環境を確保するための配慮点等

教育・保育施設等に勤務する職員は、『大切な命を預かる』という責任の重さを受け止めて業務にあたらなければならない。

安全な教育・保育環境を確保するため、『健康状態・人数確認・活動内容の把握』は、最も基本的な確認事項である。子どもの動静については、常に全員の子どもの把握し、観察の空白時間が生じないよう職員間の連携を密にし、一人ひとりを実に観察して、事故の発生防止に取り組むこと。

① 子どもの年齢・月齢・・・発達とそれに伴う危険

子どもの事故は、その多くが、子どもの発達と密接に関係している。したがって、子どもの発達過程やそれぞれの時期の認知・身体・運動面の特徴などを十分に理解しておくことによって、事故を未然に防ぐための配慮や工夫をすることができる。

●子どもの発達の目安と起こりやすい事故＜資料編 P2＞

② 場所・・・保育室、園庭、トイレ、廊下などにおける危険等

- ・ 保育室
- ・ 遊戯室
- ・ 園庭
- ・ トイレ
- ・ 廊下
- ・ 階段
- ・ 玄関・昇降口
- ・ 門
- ・ 固定遊具
- ・ 小動物の小屋等

各施設の状況にあわせ

○設備上起こりうる事故

○子どもの行動上想定される事故

両面から考え、そのリスクを除去する

安全点検表を活用

●施設安全点検表 1 ＜資料編 P3＞

●遊具（園内外）安全点検表 2 ＜資料編 P4＞

●保育室安全点検表 3 ＜資料編 P5＞

③ 活動内容・・・遊具を使った遊びや活動に伴う危険等

- ・ 遊具を使った遊び・・・ 転落・転倒・打撲・擦過傷等
(すべり台、ブランコ等それぞれの遊具の持つ特性と起こりうる危険を把握する)
- ・ 室内遊び・・・ 転倒・打撲・指をはさむ・誤嚥（玩具等）・挫傷等
- ・ プール・水遊び・・・ 溺水・転倒等
- ・ 園外・・・ 交通事故・転倒・打撲・誤嚥（ゴミ、枯葉等）等
- ・ 食事中・・・ 誤嚥、食物アレルギー等
- ・ 睡眠中・・・ 窒息等

(2) 重大事故が発生しやすい場面

●重大事故とは

○死亡事故

○治療に要する期間が 30 日以上の負傷や疾病を伴う重篤な事故等

(意識不明(人工呼吸器を付ける、ICUに入る等を含む)の事故についてはその後の経緯にかかわらず、事案が生じた時点で報告する)

活動・場面	発生しやすい事故	リスクの除去
睡眠中	窒息	○ 窒息リスクの除去を、睡眠前及び睡眠中に行う。 ・ 室内は、子どもの状態がわかるよう適度な明るさにする。 ・ 乳児の顔が見えるように仰向けに寝かせる。 ・ 必ず職員が付き添うこと。子どもだけにしない。 ・ やわらかい布団やぬいぐるみ等を使用しない。 ・ ひも・ひも状のものを置かない。 ・ 口の中に異物がないか確認する。 ・ ミルクや食べたもの等の嘔吐物がないか確認する。 ・ 定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を点検する。 ・ 確認した者が睡眠チェック表に名前を記録する。 ★睡眠チェックで安全確認をする目安 ・ 生後6か月末までの乳児・・・・・・・・5分ごと ・ 生後7か月～1歳・・・・・・・・10分ごと ・ 1歳～2歳・・・・・・・・15分ごと ・ 2歳児以上・・・・・・・・20分ごと ●睡眠チェック表<資料編 P6～10>
プール活動 水遊び	溺水・転倒	○監視体制の空白が生じないように、監視を行う者とプール指導を行う者を分けて配置し、役割分担を明確にする。 ○事故を未然に防止するため、プール活動に関わる職員に対して、子どものプール活動・水遊びの監視を行う際に見落としがちなリスクや注意すべきポイントについて事前教育を十分に行う。 ○プールの衛生管理(プールの清掃、環境整備、水質管理等)、プール遊びの注意事項については、新潟市保育の計画作成の手引き「プールの衛生管理について」を参照する。

プール活動 水遊び	溺水・転倒	★プール活動・水遊びの際に注意すべきポイント (監視を行う者) ・ 監視に専念する。 ・ 監視エリア全域をくまなく監視する。 ・ 動かない子どもや不自然な動きをしている子どもを見つける。 ・ 定期的に視線を動かしながら監視する。 (プール指導等を行う者) ・ 十分な監視体制の確保ができない場合については、プール活動の中止も選択肢とする。 ・ 時間的余裕をもってプール活動を行う。
食事中	誤嚥	○子どもの食事に関する情報（咀嚼・嚥下機能や食行動の発達状況、喫食状況）や保護者から聞き取った内容も含めた当日の子どもの健康状態について職員間で情報を共有する。 ○子どもの年齢・月齢によらず、普段食べている食材が窒息につながる可能性があることを認識して、食事の介助及び観察をする。 ★食事の介助をする際に注意すべきポイント ・ ゆっくり落ち着いて食べることができるよう子どもの意志に合ったタイミングで与える。 ・ 子どもの口に合った量で与える（一回で多くの量を詰めすぎない）。 ・ 食べ物を飲み込んだことを確認する（口の中に残っていないか注意する）。 ・ 汁物などの水分を適切に与える。 ・ 食事の提供中に驚かせない。 ・ 食事中に眠くなっていないか注意する。 ・ 正しく座っているか注意する。 ○食事中に誤嚥が発生した場合、迅速な気づきと観察、救急対応が不可欠であることに留意し、子ども（特に乳児）の食事の様子を継続的に観察する。 ○過去に、誤嚥、窒息などの事故が起きた食材（例：白玉風のだんご、丸のままのミニトマト等）は、誤嚥を引き起こす可能性があることを保護者に説明し、臼歯がなく食べ物をかんですりつぶすことができない子どもには使用しないことが望ましい。

食事中	誤食 (食物アレルギー)	○アレルギーについて配慮が必要な場合、保護者から申し出てもらい「アレルギー疾患生活管理指導表」を配布・提出してもらう。食物の除去については、医師の診断に基づいた同表を基に対応を行い、完全除去を基本とする。 ○主要原因食物である鶏卵・牛乳・小麦は安価で重要な栄養源であるため、食事の献立に組み込まれる傾向にあることから、主要原因食物に対する食物アレルギーの子どもが施設等にいる場合、除去食又は代替食による対応が必要。 ○施設等では、家庭で摂ったことのない食物は基本的に与えないことが望ましい。また、家庭で摂ったことがあっても新規に症状を誘発する場合があることから、食事後に子どもがぐったりしている等の場合、アナフィラキシーショックの可能性を疑い、必要に応じて救急搬送を行う。 ○除去食、代替食の提供の際には ・ 献立 ・ 調理 ・ 調理室内で取り分けるとき ・ 配膳①（調理室から他の職員に受け渡すとき） ・ 配膳②（保育室等での食事を準備するとき） ・ 食事の提供 という食事提供のプロセスである一連の行動において、どこで人的エラーが起きても誤食につながることに注意する。 ○自らの施設等において、人的エラーが発生する可能性がある場面を明らかにし、人的エラーを減らす方法や気づく方法のマニュアル化を図ることが望ましい。 ★人的エラーを発生させないために ・ 材料等の置場所、調理する場所を区別する。 ・ 食物アレルギーの調理担当者を明確にする。 ・ 材料を入れる容器、食物アレルギーの子どもに食事を提供する食器、トレイの色や形を明確に変える。 ・ 除去食、代替食は普通食と形や見た目が明らかにちがうものにする。 ・ 食事内容を記載した配膳カードを作成し、食物アレルギーの子どもの調理、配膳、食事の提供までの間に2重、3重のチェック体制をとる。 ●保育施設における食物アレルギー対応マニュアル（新潟市保育課作成）参照
-------------------	--------------------------------	--

活動中	玩具等の誤嚥による窒息	○口に入れると咽頭部や気管が詰まる等窒息の可能性のある大きさ、形状の玩具や物については、乳児のいる室内に置かないことや、手に触れない場所に置くこと等を徹底する。 ○手先を使う遊びには、部品が外れない工夫をしたものを使用するとともに、その子どもの行動に合わせたものを与える。 ○誤嚥につながる物（例：髪ゴムの飾り、キーホルダー、ビー玉や石など）を身に着けている場合もあり、これらの除去については保護者を含めた協力を求める。
-----	-------------	---

★効果的な事故防止のために

- 睡眠の点検時
- プール活動の監視時
- 食物アレルギーの子どもへの食事提供の確認行動時
- 子どもの移動等の人数確認時

声に出して
指差し確認を
実践する！

(3) 事故予防対策

日常的に子どもの生活の中から、小さな危険に気づくことが、事故発生防止につながる。

① 園内における安全点検及び改善

施設、設備、遊具、玩具、用具、園庭等の定期的な点検、園舎マップ等の作成等

- ・あらかじめ点検項目を明確にし、定期的に点検を実施した上で、文書として記録する。
その結果に基づいて、問題のある箇所の改善を行い、その結果を職員に周知して情報の共有化を図る。

点検表	点検頻度	点検者
施設安全点検表 1	週 1 回	園長 主任保育士
遊具（園内外）安全点検表 2	毎日	各園で相談
保育室安全点検表 3	毎日	担当保育士

※各園の実情や実態に応じて、項目の見直しを行い実施する。

- 施設安全点検表 1 <資料編 P3>
- 遊具（園内外）安全点検表 2 <資料編 P4>
- 保育室安全点検表 3 <資料編 P5>

○園舎マップ

園舎マップを作成し、園舎内の危険箇所、注意が必要な箇所をチェックする。
職員間で情報を共有する。

② 遠足、散歩等、園外保育における注意事項及び留意点

散歩や園外保育に行く際は、必ず正職員を含む複数の職員で対応すること。

○散歩経路マップ、公園マップの作成（目的地の安全確認を含めた事前準備）

日常散歩する経路や散歩で利用する公園等のマップを作成し、危険個所を把握しておく。
職員間で共有できるよう、常に目が届くところに掲示しておく。

○園外保育チェックリスト、お散歩園児数確認メモ、お散歩行ってきますカード

日頃から、散歩・園外保育等を行う際に留意すべきことについて、チェックリストに基づいて、職員間で確認・周知しておく。

実際、園外に出る際は、園長・主任へ報告するとともに「お散歩行ってきますカード」に人数、行先等記入する。「お散歩 園児数確認メモ」を携行し、活動の切り替わる場面や活動中、確実に人数確認し安全を図る。

●園外保育チェックリスト・お散歩園児数確認メモ＜資料編 P11＞

●お散歩行ってきますカード＜資料編 P12＞

○万が一園外で事故が発生した場合、すぐ対応できるように、事前に園外保育先近隣の受診先やタクシー会社等を確認し連絡先を携行する。

③ ヒヤリ・ハット・・・事故には至らない体験の記録、情報共有

「ひやり」としたり「はっと」した、事故には至らない体験を記録する。その情報を職員間で共有するとともに記録を分析して自園の傾向を知り、事故防止対策を講じる。事故防止対策については、研修を通じて職員に周知し、職員は、研修を踏まえて教育・保育の実施に当たる。

●ヒヤリ・ハットの記録＜資料編 P13＞

④ 保育上の自主点検・・・年齢別事故防止チェックリストによる自主点検

年齢別事故防止のためのチェックリストを活用して、保育上の自主点検をする。日常保育の見直しと共に職員間の共通理解を深める。

例) 年2回（上半期・下半期） 年4回（3か月毎）

重大事故につながりそうなヒヤリ・ハット、軽度な事故発生時等随時

●0歳児～5歳児クラス用 事故防止チェックリスト

＜資料編 P14～29＞

⑤ 映像記録の活用・・・事故の未然防止、再発防止

睡眠中、水遊び、食事中等の活動における危険の有無の確認や、万が一事故が発生した場合の検証ができるよう、必要に応じてビデオ等の記録機器の活用を検討する。

○映像記録により、活動中どのような危険が潜んでいるかを見つけることができる。

事故の未然防止、再発防止には有効。事故が発生した場合、映像記録があれば客観的かつ迅速な検証を行うことができる。

（４）緊急時の対応体制の確認・周知

「いつ、誰に起こるかわからない＝私たちの園でも起こる可能性がある」という前提で日頃から緊急時の対応体制を整えておく。

① 緊急時の役割分担・・・事故発生時の役割分担を決め、掲示する。

●緊急時の役割分担＜資料編 P30＞

② 日常の準備・・・受診医療機関のリスト、救急車の呼び方等、事前に整理し掲示する。

緊急時に落ち着いた対応ができるよう、日常必要と思われるものを準備しておく。

《参考例》 ●「病院緊急連絡先」 ＜資料編 P31＞

●「救急車の呼び方（119番通報）」 ＜資料編 P32＞

●「受診時の持ち物」

●「保護者の緊急連絡先の把握」 ●「職員の緊急連絡網」

（５）職員の資質向上

子どもの安全確保に関しては、職員一人ひとりの事故防止に係る資質向上が求められる。

① 事故への認識、危険に対する予知能力の向上

危険を回避できるよう、以下の方法で個々の予知能力の向上を図る。

- ・子どもの発育、発達と事故との関係をよく理解する。
- ・事故の生じやすい場所（自らの施設の保育環境を考慮する）を職員会議等、機会を設けて職員間で共有する。
- ・定期的に日常保育の自主点検を行い、年齢や場面、季節に応じた安全面の配慮事項を職員間で共通理解する。
- ・日頃から意識的に安全について関心を持つ努力をし、危険予測できる感覚を磨く。

② 救急対応等、事故発生時の対応能力の向上

実践的な研修を通して、救急対応、事故発生時の対処法等対応能力の向上を図る。

- ・心肺蘇生法
 - ・気道内異物除去
 - ・AED、エピペン®の使用法
- ・・・実技講習・計画的な訓練を実施する。
- ・119番通報・・・園舎内・園庭での活動中、園外活動中、プールでの活動中等、場所や場面、職員の配置状況を変え、実践的なものとなる工夫をした通報訓練を行う。
 - ・緊急時の役割分担・・・各々の役割分担を確認し、シミュレーションを行う。

- 自治体等で行われる研修・実技講習等に積極的に参加する。
- 消防等の関係機関、保護者等の協力を得ながら園内で各種訓練を計画的に行う。
- 保護者や地域住民と常日頃からコミュニケーションを積極的にとり、いざという時の協力・援助を依頼できる関係づくりに努める。

(6) 安全教育

事故防止のために、子どもや保護者に対する安全教育にも取り組むことが望ましい。

① 子どもに対して

年齢、発達、能力に応じた方法で、子ども自身が安全や危険を認識できるようにする。

- ・ 子ども自身に危険を認識させる。(園舎マップ、散歩経路マップ等活用)
- ・ 遊具の正しい使い方、遊び方を教える。
- ・ 事故発生時の約束事や行動の仕方について理解させる。
- ・ 遊びを通して、危険回避能力や体力をつけさせる。

② 保護者に対して

家庭における保護者の行動や教育により、子どもが安全な生活習慣を身につけることができるよう保護者との連携を図る。

- ・ プール活動・水遊び・誤嚥については、保護者の理解と連携が必要になる。
- ・ DVD等を利用した保護者向け研修会を開催する。
- ・ やけどの防止、衣類・靴の選び方、ヘルメット・チャイルドシート着用の推進等、子どもの事故防止対策について、園だより、保護者会などを活用し、保護者に周知する。

2 事故の再発防止のための取組み

(1) 再発防止策の策定

事故後の検証、分析を踏まえて、類似事故の再発防止策を検討する。

検証・・・環境、設備、人（子ども・職員等）、人的配置、管理、行動等
様々な角度から検証を行う。

分析・・・事故発生の原因、危機対応への問題点を分析する。

再発防止策の策定・・・事故後の検証、分析を踏まえて、類似事故の再発防止策を
検討する。

《具体的な再発防止策を検討する視点》

- 事故発生の原因はなにか。
- 防ぐことはできなかったか。
- 連携・対応はうまく行えたか。
- 類似事故の発生防止のために何をすべきか。



具体的な防止策を
立てる。

(2) 職員等への周知徹底

類似事故が発生しないよう、発生した事故についての情報を共有し、再発防止策について、全職員に周知する。必要に応じて保護者と共有する。

Ⅱ

事故発生時の対応

(1) 事故への対応

対応	対応の内容
事故直後の状況把握と応急処置	① 事故の状況を的確に把握する。(ケガ人、現場、周囲の状況等) ② ケガの程度等を見極め、応急処置をする。 事故現場からの移動が可能な場合は、医務室等へ連れて行く。 ③ 他の子どもは速やかに場所を移動させて保育を行う。 ・子どもの生命と健康を優先し、応急処置は迅速に行う。 ・受診の判断に迷う場合は受診する。 ・職員は事故の状況や子どもの様子に動揺せず、また子どもの不安を軽減するように対応する。
園長等へ報告	・園長、主任等へ報告する。
処置の決定	① 園長、主任等を交えて処置を決定する。 担当職員だけで判断しない。 園長、主任が不在時にも対応ができるように、次にリーダーとなる職員を決めておき、日頃から緊急時の役割分担について明確にしておく。 ●「緊急時の役割分担」＜資料編 P30＞ ・救急車を要請する。 ・医療機関へ連れて行く。 ・安静にして経過を見る。 ・応急手当を行い、保育を続行する。 ② 受診時、職員も同行する。 ※医療機関等の一覧を作成しておく。 (電話番号、住所、診療科、診療時間、休診日) ●「病院緊急連絡先」＜資料編 P31＞

保護者への連絡	・ 保育中のケガについては、保護者へ必ず説明する。 【事故発生時に電話連絡をする際の注意事項】 事故の発生状況、医療機関の診察・検査結果、今後の受診等についての的確に報告し、誠意をもって丁寧に対応する。 ● P18 ②保護者等への対応参照 ① 最初に事故をおこしてしまったお詫びを言う。 ② 事故の概要を要領よく伝える。(内容を整理して書き出しておく) ③ 子どもの事故の状況、ケガの程度等を具体的に客観的に説明する。 ④ 「大丈夫です」「たいしたことはありません」等の安易な言葉はさける。 ⑤ ケガの程度を聞かれたら、確認できる範囲内において説明する。 ⑥ 相手の話を傾聴し、最後に再度お詫びを言う。
事故報告	報告対象 保育中の事故で、ケガをして医院・病院を受診した事例 <u>※骨折や複数の診療科を受診するケガ、事故による保護者とのトラブルの場合は、重大事故の報告に準じて区役所へ至急報告する。</u> ● P16 「事故報告」参照 報告方法 ≪公立保育施設（保育園・認定こども園）≫ ・ 「災害報告書」「事故の経過報告書」「受診結果及び事故防止の具体策」を、速やかに区役所へ提出する。 ・ 医療機関を受診した場合は、後日、医療費等の請求手続きを行う。 ≪私立保育施設（保育園・認定こども園・地域型保育事業施設）≫ ・ 事故の再発防止について検討し、「園児の事故報告書」を速やかに区役所へ提出する。 ≪私立幼稚園・認可外保育施設≫ ・ 重大事故の報告対象（P16）以外は、報告不要 ●事故報告様式 <資料編 P33～38>

(2) 重大事故等への対応

●重大事故とは

○死亡事故。

○治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故等。

(意識不明(人工呼吸器を付ける、ICUに入る等を含む)の事故については、その後の経緯にかかわらず、事案が生じた時点で報告する。)

対応	重大事故等への対応												
事故直後の状況把握と応急処置	① 事故の状況を的確に把握する。(ケガ人、現場、周囲の状況等) ② ケガの程度等を見極め、応急処置をする。 ③ 心肺蘇生・応急処置・119番通報を行う。 ④ 他の子どもは速やかに場所を移動させて保育を行う。 ⑤ <u>事故が発生した現場は、現状のまま保存しておく。</u> ・子どもの生命と健康を優先し、応急処置は迅速に行う。 ・受診の判断に迷う場合は受診する。 ・職員は事故の状況や子どもの様子に動揺せず、また子どもの不安を軽減するように対応する。												
園長等へ報告	① 園長、主任等へ報告。必要に応じて緊急連絡網を使用する。 ② 緊急時の役割分担に基づき対応する。(役割分担を決めておく) 園長が不在でも対応できるようにしておく。 <table border="1"> <tr> <td>園長</td><td>指揮、職員・関係機関への連絡調整</td></tr> <tr> <td>主任</td><td>保育の統括、保護者への連絡</td></tr> <tr> <td>保育士</td><td>保育、避難誘導、(応急手当)</td></tr> <tr> <td>看護師</td><td>応急手当</td></tr> <tr> <td>短時間保育士及び保育補助</td><td>保育、避難誘導</td></tr> <tr> <td>調理員等</td><td>保育の補助</td></tr> </table> ●「緊急時の役割分担」＜資料編 P30＞	園長	指揮、職員・関係機関への連絡調整	主任	保育の統括、保護者への連絡	保育士	保育、避難誘導、(応急手当)	看護師	応急手当	短時間保育士及び保育補助	保育、避難誘導	調理員等	保育の補助
園長	指揮、職員・関係機関への連絡調整												
主任	保育の統括、保護者への連絡												
保育士	保育、避難誘導、(応急手当)												
看護師	応急手当												
短時間保育士及び保育補助	保育、避難誘導												
調理員等	保育の補助												
処置の決定	① 園長、主任等を交えて処置を決定する。 担当職員だけで判断しない。 園長、主任が不在時にも対応ができるように、次にリーダーとなる職員を決めておき、日頃から緊急時の役割分担について明確にしておく。 ・救急車を要請する。 ・医療機関へ連れて行く。 ・安静にして経過を見る。 ・応急手当を行い、保育を続行する。												

	② 受診時、職員も同行する。 ※医療機関等の一覧を作成しておく。 (電話番号、住所、診療科、診療時間、休診日) ●「病院緊急連絡先」 <資料編 P31>
保護者への 連絡	○園内でのケガについては、保護者へ必ず説明する。 【事故発生時に電話連絡をする際の注意事項】 事故の発生状況、医療機関の診察・検査結果、今後の受診等について的確に報告し、誠意をもって丁寧に対応する。 ● P18 ②保護者への対応参照 ① 最初に事故をおこしてしまったお詫びを言う。 ② 事故の概要を要領よく伝える。(内容を整理して書き出しておく) ③ 子どもの事故の状況、ケガの程度等を具体的及び客観的に説明する。 ④ 「大丈夫です」「たいしたことはありません」等の安易な言葉はさける。 ⑤ ケガの程度を聞かれたら、確認できる範囲内において説明する。 ⑥ 相手の話を傾聴し、最後に再度お詫びを言う。

事故報告

報告対象

(◆は市が追加した基準 □は新潟県が追加した基準)

- 重大事故 (P14 参照)
- ◆骨折 ◆複数の診療科を受診 ◆その他重傷と思われるケガ
- ◆事故による保護者とのトラブル
- ☐対象施設内で生じた犯罪行為 (警察・消防等他の機関がかかわったもの)
- ☐建物等の損傷を伴う事故 (軽微なものを除く)

報告方法

○区役所または保育課へ至急報告する。

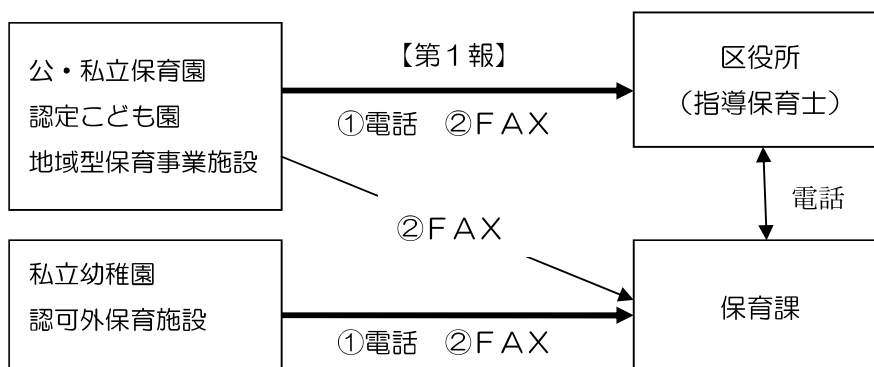
公・私立保育園、認定こども園、地域型保育事業施設 ⇒ **区役所**

私立幼稚園 (新制度へ移行)、認可外保育施設 ⇒ **保育課**

【第1報】 事故発生後至急・・・①電話

②FAX (区役所と保育課へ送る)

【第2報】 詳細についての報告。その後は、必要に応じて追加報告を行う。



報告様式

公立保育施設 (保育園・認定こども園)

・・・・・・「災害報告書」「事故の経過報告書」

私立保育施設 (保育園、認定こども園、地域型保育事業施設)

・・・・・・「園児の事故報告書」

私立幼稚園、認可外保育施設

・・・・・・「教育・保育施設等事故報告様式 (Ver2)」

●事故報告様式 <資料編 P33～38>

	○事故報告の記録の他、事故に係った職員は1人ずつ個別に、事故の状況を時系列に当日中に記録する。 ● P18 ①事故の記録参照
保護者等への対応	○保護者の心理を踏まえた丁寧な対応に留意すると共に、職員の精神面でのフォローも行う。 ● P18 ②保護者への対応参照
報道機関等への対応	○報道機関等への対応窓口については、下記のとおりとし、情報の混乱が生じないようにする。 《公立保育施設》 区役所 《その他の保育施設》 各法人 ○個人情報の保護と以下の項目に留意し、事実関係や事故の再発防止への取り組みを整理する。 ・断片的な情報を発信して誤解を与えることがないように、区役所または保育課と連絡調整を行う。 ・報道機関等への対応の内容について、事故にあった保護者に丁寧に説明をする。
事故後の検証	① 事故防止の取り組みや事故対応について、常に全職員で分析・評価を行い議題を整理し、再発防止に努める。 ② 小さな改善であっても、保護者、区役所、保育課へ報告して情報の共有化を図り、全ての保育施設での安全の向上につなげていくように心がける。 ● P19 ③事故後の検証参照 ※ 死亡事故については検証委員会において、事例ごとに検証を行う。なお、死亡事故以外の重大事故として国への報告対象となる事例の中で、市において検証が必要と判断した事例（例えば、意識不明等）についても検証する。
事故要因への対応	① 検証結果、再発防止策により、速やかに対応を行う。 ② 明かに危険要因のある食材、玩具等は速やかに除去する、または危険のないよう対応する。

① 事故の記録

通常の事務処理に加え、事故に係った職員が、他の職員と相談せず、一人ずつ、個別に状況を時系列に記録する。

様式例

事故前・事故時、事故直後に自分のいた場所と他の職員がいた場所（位置）、見た事、聞こえた事、言われた事、自分の行動、言った事等、覚えている限り、全てを記載してください。

記載については黒色のボールペンを使ってください。

※他の職員と相談せず、自らの記憶に基づき記載してください。

名 前

【事故前】

【事故時】

【事故直後】

② 保護者等への対応

保護者の心理を踏まえた対応に留意するとともに、職員に対しても精神面でフォローを行う。対応時は、相手の話を傾聴し、誠意をもって丁寧に対応する。

保護者への報告に関する留意点

○電話で報告する場合、電話の前に伝える内容を整理等し、事故の概要を的確に伝える。

なお電話の内容は記録する。

○子どもの事故の概況（事故発生経緯、事故発生時の様子、受診結果）については、具体的かつ、客観的に説明するよう心がける。

○保護者からの質問には、状況を踏まえ、確認できた内容の範囲内において説明する。

不明な点や確認中の点については、その旨を伝える。

事故にあった園児以外の保護者への対応

○必要に応じて保護者説明会を開催し、正確な情報を伝える。不明な点や確認中の点については、その旨を伝える。

○説明については事故にあった保護者の意向を確認、尊重して対応する。

③ 事故後の検証

対応の分析・評価

○発生した危機への対応を時系列に整理した上で、人、組織、環境、管理の仕組み、制度など様々な角度から、危険発生の原因や危機対応への問題点を抽出して検証を行う。

○これまで取り組んできた改善策が守られているか、事故の防止・軽減につながっているかを検証する。分析・評価に際しては、事故の評価はもとより、保護者の意見を真摯に受け止めて見直しを行う。

【評価事項（例）】

未然防止活動	危機発生時
○一連の活動が機能しているか。 ○全職員で取り組んでいるか。 ○各種、チェックリストは活用されているか。 ○ヒヤリ・ハット事例は改善されているか。 ○訓練等は効果的に行われているか。 など	○危機発生の原因は何か。 ○防ぐことはできなかったか。 ○連携・対応はうまく行えたか。 ○改善する点はどこか。 ○手順をパターン化できないか。 など

※死亡事故等の重大事故の検証に当たっては、外部の委員で構成する検証委員会を設置して行う。

再発防止策の検討

- 事故検証の結果、評価から、再発防止策を全職員で検討し、書面にまとめる。
- 必要に応じ、保護者を交えて意見交換等を行ない、相互理解を深める。

参 考 資 料

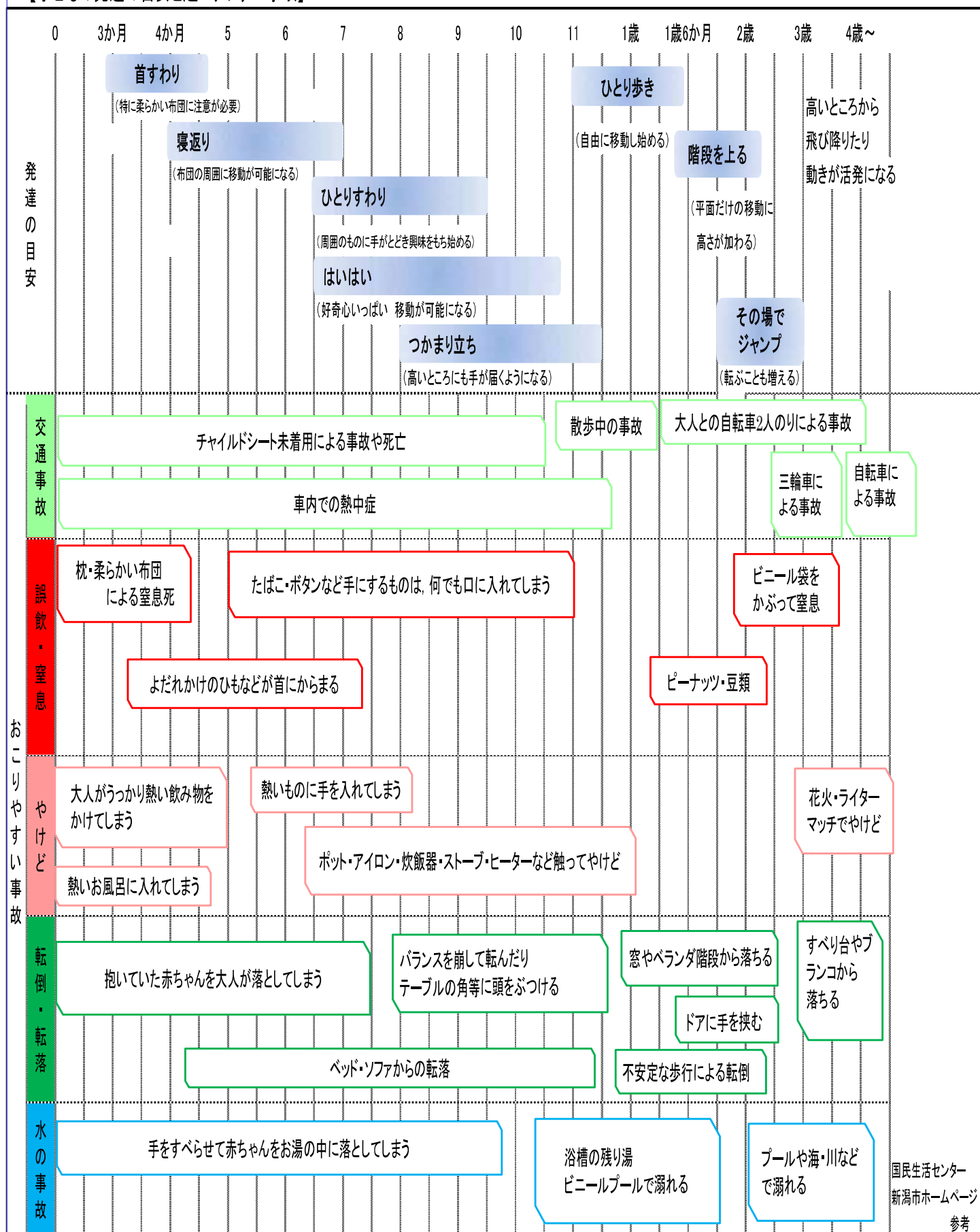
- 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン（厚生労働省）
- 子どもの発達と 起こりやすい事故（国民生活センター）
- 新潟市「保育の計画」作成の手引き（平成 21 年 12 月）

関連ホームページ

- 新潟市ホームページ
 - >子育て・教育>妊娠・出産・子育て>赤ちゃんが生まれたら
 - >子育てアドバイス

資料編 事故報告様式

【子どもの発達の目安と起こりやすい事故】



国民生活センター
新潟市ホームページ
参考

施設安全点検表 1

平成

年

月

施設名

週	チェックポイント		1週 / 日	2週 / 日	3週 / 日	4週 / 日	5週 / 日	備考
	点検者							
園	遊具 (共通)	落下の危険防止(落ちそうな箇所はないか)						
		遊具, 着地面の安全対策(地面の突起, 穴)						
		遊具の腐食, 破損, 摩耗, ささくれはないか						
		ボルト 接合部の腐食 ゆるみはないか						
		塗装の状況(さびていないか)						
		遊具全体のがたつきはないか						
		問題点(例ブランコの座板は床から30センチ以上あるか)						
庭	石, ガラス, 動物の糞などが落ちていないか							
	地面に大きなくぼみはないか							
	砂場の衛生管理(日光, 薬物処理)をしているか							
	樹木の手入れ(害虫, 伐採)							
	不審者の潜む場所はないか							
	水はけがよくなっているか							
園舎	玄関周りの破損はないか(カギ, 床面, すのこ)							
	飛び出さないような措置はしているか							
	出入り口の戸の開閉はスムーズか							
	廊下や出入り口に危険なもの, 不要なものは置いていないか							
	電気器具, コンセントの状態は正常か							
	手洗い場は清潔で, 安全性が保たれているか							
	床面の安全性が保たれているか							
	テレビの落下防止がなされているか							
	棚, ロッカーの設置は安全か							
	保育室, 遊戯室は整理整頓されているか							
	窓ガラス, 窓枠の破損, 腐食はないか							
	窓の開閉はスムーズか, はずれやすくなっていないか							
	乳児室のベッドの柵のがたつき, ゆるみなどないか							
	温湿度計の管理はなされているか							
	トイレは清潔で安全が保たれているか(床面, 便器)							
	かさたてに置きっぱなしの傘はないか							
その他	プールにひび割れなどないか							
	プールの床面, 周りは滑りやすくなっていないか							
	園舎周りは, 清潔で安全な状態が保たれているか							
	駐車場の安全対策をこうしているか							

* 良好 ○ 注意, 危険 ×

* 空欄は各園で必要な項目を加えてご使用ください

平成 年 月 遊具（園内外）安全点検表 2

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	施設名
	点検者																																
1	ブランコは安全に使えるか																																
2	滑り台は安全に使えるか																																
3	ジャングルジムは安全に使えるか																																
4	鉄棒は安全に使えるか																																
5	総合遊具は安全に使えるか																																
6	うんていは安全に使えるか																																
7	砂場に糞等落ちていないか																																
8	園庭に石、ガラス等危険物はないか																																
9	（雨上がり等）遊具が濡れていないか																																
10	水たまりはできていないか																																
11																																	
12																																	
13																																	
14																																	
15																																	
16																																	

※チェック欄は一番上の欄のみ名前を記入し、他は✓とする

※空欄は各園で必要な項目をプラスしてご使用ください

၈

[illegible]

※空欄は各園で必要な項目をプラスしてご使用下さい。

生後6か月末までの乳児

睡眠チャエック表（5分チャエック）

月 日 ()

施設名

氏名	7	8										9										10										備考							
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30		35	40	45	50	55		
11	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
15	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
7	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
11	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
15	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
7	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
11	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
15	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
7	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
11	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
15	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
7	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
11	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			
15	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55			

★ 0歳児(6か月末までの乳児)の睡眠チャエック ⇒ 5分ごとに行い確認後チャエックを入れておく

★ 確認者がわかるように記録する (例) 確認者の頭文字等を記入

- ★ 睡眠チャエックのポイント
- ☐ 十分な観察ができる明るさの確保
- ☐ 顔面および唇の色の確認
- ☐ 鼻や口の空気の流れや音の確認
- ☐ 呼吸に伴う胸郭の動きの確認
- ☐ 体に触れて体温確認
- ☐ うつぶせになっている子を仰向けになおす

- ★ 窒息リスクの除去を行い、安全な睡眠環境を整える
- ☐ 乳児の顔が見えるように仰向けに寝かせる。
- ☐ 必ず保育者が付き添うこと。子どもだけにしない。
- ☐ やわらかい布団やぬいぐるみ等を使用しない
- ☐ ひも、ひも状のものを置かない。
- ☐ 口の中に異物がないか確認する。
- ☐ ミルクや食べたもの等の嘔吐物がないか確認する

施設名

睡眠チェック表（10分チェック）

月 日（ ）

氏名	10			11			12			13			14			15		
	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50
1																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
2																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
3																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
4																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
5																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
6																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
7																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
8																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
9																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	
10																		
氏名	10	20	30	40	50		11	20	30	40	50		12	20	30	40	50	

★ 7か月～1歳の睡眠チェック ⇒ 10分ごとに行い確認後チェックを入れておく

★ 確認者がわかるように記録する（例）確認者の頭文字等を記入

★ 睡眠チェックのポイント

- ☐ 十分な観察ができる明るさの確保
- ☐ 顔面および唇の色の確認
- ☐ 鼻や口の空気の流れや音の確認
- ☐ 呼吸に伴う胸部の動きの確認
- ☐ 体に触れて体温確認
- ☐ うつぶせになっている子を仰向けにしておく

★ 窒息リスクの除去を行い、安全な睡眠環境を整える

- ☐ 乳児の顔が見えるように仰向けに寝かせる。
- ☐ 必ず保育者が付き添うこと。子どもだけにしない。
- ☐ やわらかい布団やぬいぐるみ等を使用しない。
- ☐ ひも、ひも状のものを置かない。
- ☐ 口の中に異物がないか確認する。
- ☐ ミルクや食べたものの等の嘔吐物がないか確認する。

1歳～2歳

睡眠チェック表（15分チェック）

月 日 ()

施設名

1	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
2	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
3	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
4	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
5	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
6	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
7	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
8	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
9	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	
10	氏 名	10	11	12	13	14	15											備 考
		0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	

★ 睡眠チェックのポイント

- ☐ 十分な観察ができる明るさの確保
- ☐ 顔面および唇の色の確認
- ☐ 鼻や口の空気の流れや音の確認
- ☐ 呼吸に伴う胸部の動きの確認
- ☐ 体に触れて体温確認

★ 窒息リスクの除去を行い、安全な睡眠環境を整える

- ☐ 乳児の顔が見えるように仰向けに寝かせる。
- ☐ 必ず保育者が付き添うこと。子どもだけにしない。
- ☐ やわらかい布団やぬいぐるみ等を使用しない。
- ☐ ひも、ひも状のものを置かない。
- ☐ 口の中に異物がいないか確認する。
- ☐ ミルクや食べたものの等の嘔吐物がないか確認する。

2歳児

月 日 () 睡眠チェック表 (20分チェック) 施設名

1	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
2	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
3	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
4	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
5	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
6	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
7	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
8	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
9	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
10	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
11	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	
12	氏 名	10	11	12	13	14	15	備考
		0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	0 20 40	

★ 確認者がわかるように記録する

(例) 確認者の頭文字等を記入

★ 睡眠チェックのポイント

- ☐ 十分な観察ができる明るさの確保
- ☐ 顔面および唇の色の確認
- ☐ 呼吸に伴う胸部の動きの確認
- ☐ 鼻や口の空気の流れや音の確認
- ☐ 体に触れて体温確認

[illegible]

★ 確認者がわかるように記録する
(例) 確認者の頭文字等を記入

★ 睡眠チェックのポイント

- ☐ 十分な観察ができる明るさの確保
☐ 顔面および唇の色の確認
☐ 鼻や口の空気の流れや音の確認
☐ 呼吸に伴う胸郭の動きの確認
☐ 体に触れて体温確認

園外保育チェックリスト【平成 年 月 日()】

チェック項目は
声に出して確認！

クラス

チェック者名

	チェック項目	チェック欄
園 出発前	天候・職員数及び時間など総合的に判断して園外保育の必要があるのか。	☐
	臨時職員だけの引率となっていないか。	☐
	園長又は主任から許可を受けたか。(子ども及び職員の人数や帰園時間)	☐
	リーダーを決めたか。	☐
	携帯電話・防犯ベル・救急用品を持参したか。	☐
	子どもの人数確認および担当者が職員同士でしっかり共有されているか。	☐
目的地 到着後	到着時、人数確認を実施したか。	☐
	子どもを遊ばせるにあたり、危険な個所は無い。	☐
	常に、子どもの様子や動きに気をつけながら、把握しているか。	☐
	園に帰る時間を職員同士で共有しているか。	☐
目的地 出発前	人数確認を実施したか。	☐
	持ち物を忘れていないか。	☐
着園時	人数確認を実施したか。	☐
	園長又は主任に帰園の報告をしたか。	☐

お散歩 園児数確認メモ

平成 年 月 日()

- ☆ 出発前に人数を数えて記載し、場面が変わる時点で、その都度必ず人数を確認しましょう。

クラス	組
お散歩園児数	人

場面	チェック欄
出発前	人
目的地到着時	人
活動中	(:) 人
	(:) 人
	(:) 人
※ 活動中は、必要に応じて適宜確認しましょう	
目的地出発時	人
園到着時	人
備考	

記載例

お散歩 園児数確認メモ

平成 年 月 日()

- ☆ 出発前に人数を数えて記載し、場面が変わる時点で、その都度必ず人数を確認しましょう。

クラス	組
お散歩園児数	15 人

場面	チェック欄
出発前	15 人
目的地到着時	15 人
活動中	(10:15) 15 人
	(10:25) 16 人
	(:) 人
※ 活動中は、必要に応じて適宜確認しましょう	
目的地出発時	16 人
園到着時	16 人
備考: ※途中参加や早退、特記することがあった場合等メモを残す	

お散歩行ってきますカード

施設名

月 日	クラス名	行 先	出発時刻	帰園予定時刻	出発時園児数	職員人数	責任者	携帯持参者(携帯番号)	帰園時刻	帰園時園児数
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人
			:	:	人	人			:	人

ヒヤリ・ハットの記録

施設名

園児名		クラス	組	男・女	記入者名	
発生時	年 月 日 () 午前・午後 時 分					
発生場所	保育室 遊戯室 テラス 玄関 園庭 道路 園外保育先 その他()					
部位	頭 顔面(眼 鼻 耳 口腔 歯) その他の顔面() 上肢 下肢 体幹(頸 胸 腹 臀部) その他の体幹()					
体験したこと				発生時の状況及び対応		
1	転倒	1	押される			
2	ぶつかる	2	蹴られる			
3	転落	3	噛まれる			
4	飛び降りる	4	引っ張られる			
5	挟む	5	ぶたれる			
6	火傷	6	ふざける			
7	ひねる	7	ひっかかれる	そのときの職員配置及び状況		
8	切る	8	けんか			
9	誤 飲 ()	9				
10	遊 具 ()	10				
【略図】				保護者への対応		
				どうすれば防止できたか		
その後、改善工夫したこと						

閲覧(印またはサイン)

0歳児クラス用 事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
2 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
3 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
4 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()

【職員が留意する内容】		1	2	3	4	備考
1	使用するベビー用品は、子どもの年齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書をよく読んでいます					
2	ベビーベッドの柵とマットレス、敷布団の間にすき間がないことを確認している					
3	ベビーベッドの柵は必ず上げロックされているか確認している					
4	ベビーベッドの柵には、布をかけたりしていない					
5	子どもの周囲に角の鋭い家具、おもちゃ、箱等がないか必ず確認し、危険な物はすぐに片付けている					
6	ドアや戸のすき間、コンセントに子どもの指が入らないようにガードをして注意している					
7	室内・室外で角や鋭い部分にはガードをしている					
8	子どもがお座りをする側に、角や縁の鋭い物はないようにしている					
9	子ども用の椅子は、安定のよい物を使用している					
10	子どもが暖房器具に直接触れてやけどをしないように対策している					
11	バケツや子ども用プール等に、水をためておかない					
12	消毒液や洗剤、薬品は子どもの手の届かないところに置いている					
13	ビニール袋等は、窒息の危険があることを意識し管理している					
14	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
15	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる(クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある)					
16	よだれかけを外してから、子どもを寝かせている					
17	お昼寝前は、子どもの口の中に物が入っていないか確認する					
18	子どもを寝かせる時は、あお向けに寝かせ、呼吸状態を確認し、うつぶせになっている場合はあお向けに変えている					
19	おんぶして寝た子を布団に寝かせる時、おんぶひもが首にからまないようにはずしている					
20	ミルクを飲ませた後は、ゲップをさせてから寝かせている					

21	寝ている子どもの上に、物が落ちてこないように安全を確認している					
22	おむつの取り替え等で、子どもを寝かせたままにして側を離れることはない					
23	おむつ交換台を使用するときは、落下防止のベルトをしている					
24	子どもを抱いている時、つまづかないよう自分の足元に注意している					
25	子どもを抱いている時、あわてて階段をおりることはない					
26	子どもを抱いている時、ドアや戸を勢いよく閉めることがないようにしている					
27	子どもを抱いている時、危険な物は持たないようにしている					
28	ドアや戸の近くで遊ばせないようにしている					
29	口に入れやすい細かいものが室内に落ちていないか注意している					
30	トイレトペーパーの芯を通る大きさのものは危険だと理解している					
31	転倒することがあるので、周囲のおもちゃ等に注意している					
32	つかまり立ちをしたり、つたい歩きをする時は、側に付き転倒を防いでいる					
33	椅子に座っていて急に立ち上がった時、バランスを崩し倒れることがないように注意している					
34	口に物をくわえて歩行させないようにしている					
35	子どもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまづかないように注意している					
36	子どもの腕を、保育士や年上の子どもが強く引っ張ることがないようにしている					
37	沐浴中の子どもから目を離すことはない					
38	ベビーカーに乗せる時は深く座らせ、安全ベルトを使用し、側から離れないようにしている					
39	おんぶは子どもが落下しないように二人で行っている					
40	おんぶして動く時、戸や壁に子どもの頭がぶつからないようにしている					
41	床が濡れていたらずぐに拭き取るようにしている					
42	犬等の動物は噛むこともあるので注意している					

1歳児クラス用 事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
2 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
3 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
4 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()

【職員が留意する内容】

	1	2	3	4	備考
1 遊具の安全を確認している					
2 室内・室外で角や鋭い部分にはガードをしている					
3 ロッカーや棚は倒れないよう転倒防止策を行っている					
4 ドアや戸のすき間、コンセントに手を入れないようにガードをつけ注意している					
5 室内は整理整頓を行い、使用した遊具や絵本はすぐに収納場所に片付けている					
6 ハサミやカッター等の刃物は、使用したら必ず片付けている					
7 口の中に入ってしまう小さなおもちゃ等は、手の届くところに置くことがないように注意している					
8 ビニール袋等は、窒息の危険があることを意識し管理している					
9 子どもが暖房器具に直接触れてやけどをしないように対策している					
10 バケツや子ども用プール等に、水をためておかない					
11 消毒液や洗剤、薬品は子どもの手の届かないところに置いている					
12 床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
13 受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
14 延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる(クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある)					
15 子どもの遊んでいる位置を確認している					
16 すべり台やブランコにのる時は、側に付き落下しないようにしている					
17 おもちゃを持ったまま、すべり台や固定遊具で遊ばせることがないように注意している					
18 子どもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまづかないように注意している					
19 階段や玄関等の段差のあるところに、子どもが一人で行くことはないようにしている					
20 階段を上り下りする時は、子どもの下側を歩くか、手をつないでいる					

21	子どもが大きな物を持つ時は、付き添い落とさないよう支える等している					
22	子どもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
23	肘内障を起こしやすい子どもは、職員全員が把握している					
24	子ども同士手をつないでいる時、引っ張り合い肘内障になることがあるので、注意している					
25	噛みつきやひっかきの起きやすい年齢であることを理解し、すぐ防ぐことができるよう注意している					
26	手に怪我をしていたり、ふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいので注意している					
27	ドアや戸を開閉する時、手をはさまないように子どもの手や足の位置を確認している					
28	トイレトペーパーの芯を通る大きさのものは危険だと理解している					
29	転倒することがあるので、周囲のおもちゃ等に注意している					
30	食べ物のかたさや、大きさ、量等を考えて、詰まらせることのないように注意して食べさせている					
31	子どもが口や鼻や耳に、小石、ビーズ、粘土等の小さい物を入れて遊ばないように注意している					
32	公園等は保育所施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している。					
33	砂を口に入れたり、目に誤って入らないように気をつけている					
34	散歩の時はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意し、途中随時人数確認をしている					
35	水遊びをする時は、必ず職員が二人以上付き添い、目を離さず溺水を防いでいる					
36	おんぶは子どもが落下しないように二人で行っている					
37	おんぶして動く時、戸や壁に子どもの頭がぶつからないようにしている					
38	おんぶして寝た子を布団に寝せる時、おんぶひもが首にからまないようにはずしている					
39	犬や小動物は噛むことがあるので注意している					

【職員が子どもと関わる時に留意する内容】

1	すべり台に多くの子どもが集まり、押し合い等しないよう教えながら遊ばせ、注意している					
2	揺れているブランコには近づかないように教え、注意している					
3	椅子に立ち上がったたり、椅子をおもちゃにして遊ばないように教え、注意している					
4	子どもが引き出しやドア・戸を開け閉めして遊ばないように教え、注意している					
5	フォーク等をくわえて立ち歩かないように教え、注意している					
6	ふざけすぎて、ぶつかったり転倒しないように注意している					
7	落ち着いて便器に座るように補助をしている					
8	道路では飛び出しは危険なことを教え、注意している					

2歳児クラス用 事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
2 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
3 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
4 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()

【職員が留意する内容】

	1	2	3	4	備考
1 遊具の安全を確認している					
2 室内・室外で角や鋭い部分にはガードをしている					
3 粘土やブロック等年齢に適したものを提供している					
4 ロッカーや棚は倒れないように、転倒防止策を行っている					
5 運動用具を使用した後はそのままにせず、必ず片付けている					
6 室内は整理整頓を行い、使用した遊具や絵本はすぐに収納場所に片付けている					
7 ハサミやカッターなどの刃物は、使用したら必ず片付けている					
8 暖房器具は子どもが直接触れてやけどをしないよう対策している					
9 ビニール袋等は、窒息の危険があることを意識し管理している					
10 床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
11 薬や洗剤、消毒液は子どもの手の届かないところに置いている					
12 バケツや子ども用プールに水を溜める時は、子どもが自由に出入りできないようにしている					
13 散歩はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意している					
14 年齢に合った遊具か、雨等で滑りやすくなっていないか等点検して遊ばせている					
15 ジュースの空き缶やタバコ等危険な物がある時は、触らないように指導し、危険な物に気づいたら片付けている					
16 受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
17 延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる(クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある)					
18 子どもの遊んでいる位置を確認している					
19 固定遊具で遊ぶ時は、横に付き添い、危険のないようにしている					
20 フードやひも付き衣服は引っかかる危険があるため園では着用しないよう保護者に協力を求めている。					

21	靴は足に合っているか、正しく履けているかを確認している					
22	階段や玄関等の段差のあるところに、子どもが一人で行かないように注意している					
23	室内では衝突を起こさないように、人数やルールを考えて遊びを工夫している					
24	午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を十分に把握している					
25	子どもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
26	肘内障を起こしやすい子どもは、職員全員が把握している					
27	噛みつきやひっかきの起きやすい年齢であることを理解し、すぐ防ぐことができるよう注意している					
28	両手に玩具を持つ等、手がふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいので注意している					
29	ドアや戸を開閉する時、子どもの手や足の位置を確認している					
30	口の中に入ってしまう小さなおもちゃを、手の届くところに置くことがないように注意している					
31	トイレトペーパーの芯を通る大きさのものは危険だと理解している					
32	食べ物のかたさや、大きさ、量等を考えて、詰まらせることのないように注意して食べさせている					
33	子どもが口や鼻や耳に、小石、ビーズ、粘土等の小さい物を入れて遊ばないように注意している					
34	水遊びをする時は、必ず職員が二人以上付き添い、目を離さず溺水を防いでいる					
35	散歩の時は随時、人数確認をしている					
36	散歩の時、目的地に近づくと早く行こうとして、走ったり早足になり危険であることを、職員は理解している					
37	公園では保育所の施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している					
38	三輪車等は、バランスを崩すと転倒しやすいことを理解して遊ばせている					
39	子どもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまずかないように注意している					
40	子どもが大きな物を持つ時は、段差がないか等床や地面の状態に注意している					
41	階段を上り下りする時は、子どもの下側を歩くか、手をつないでいる					

【職員が子どもと関わる時に留意する内容】

1	おもちゃを持ったまま、固定遊具で遊ばないよう教えながら、注意して遊ばせている					
2	すべり台の正しい遊び方を教え、上でふざけたり、逆さ登りをしないように注意している					

3	子ども同士手をつないでいる時、引っ張り合い肘内障になることがあるので、引っ張らないように教えながら注意して遊ばせている					
4	揺れているブランコには近づかないように教え、注意している					
5	シャベル等を取り合ったり、長い物を振り回したりすると危険なことを教え、砂場での安全な遊び方を指導している					
6	テラス等は砂で滑りやすいため、子どもに注意するよう教えている					
11	椅子に立ち上がったたり、揺らして遊ぶことがないよう正しい使用方法を教えている					
12	子どもが引き出しやドア・戸を開け閉めして遊ばないよう教え、注意している					
13	フォーク等をくわえて立ち歩くことがないように教え、注意している					
14	先の尖った物を持っている時は、振り回したりしないように指導している					
15	小動物に触れる時は、関わり方や危険について教え、側について注意している					
16	道路への飛び出しは危険なことを教え、注意している					
17	手をつないで走ると、転んだ時に手がつきにくいことを教えながら注意して遊ばせている					
18	犬等の動物との関わり方や噛んだりすることもあることを教え、危険がないように注意している					

3歳児クラス用 事故防止チェックリスト

- ◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

- 1 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
2 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
3 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
4 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()

【職員が留意する内容】

	1	2	3	4	備考
1	子どもの遊んでいる遊具や周りの安全を確認している				
2	粘土やブロック等年齢に適したものを提供している				
3	ロッカーや棚は倒れないように、転倒防止策を行なっている				
4	運動用具を使用した後はそのままにせず、必ず片付けている				
5	室内は整理整頓を行い、使用した物はすぐに収納場所に片付けている				
6	ハサミは正しい使い方をさせ、使用したら必ず片付けている				
7	暖房器具は子どもが直接触れてやけどをしないように対策している				
8	床が濡れていたらずすぐに拭き取るようにしている				
9	薬や洗剤、消毒液は子どもの手の届かないところに置いている				
10	散歩はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意している				
11	年齢に合った遊具か、雨等で滑りやすくなっていないか等点検して遊ばせている				
12	ジュースの空き缶やタバコ等危険な物がある時は、触らないように指導し、危険な物に気づいたら片付けている				
13	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している				
14	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる(クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある)				
15	固定遊具で遊ぶ時は、横に付き添い、危険のないようにしている				
16	フードやひも付き衣服は引っかかる危険があるため園では着用しないよう保護者に協力を求めている。				
17	園庭に耳や鼻に入れやすい大きさのものや危険なものが落ちていないか常に注意している				
18	園庭の状況に合った遊び方を選び、子どもの行動を常に確認できるようにしている				
19	子どもが大きな物や重い物を持つ時は、足元の安全に気を配っている				
20	靴は足に合っているか、いろいろな活動に適しているか確認している				

21	午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を十分に把握している					
22	子どもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
23	肘内障を起こしやすい子どもは、職員全員が把握している					
24	水遊びをする時は、必ず職員が二人以上付き添い、目を離さず溺水を防いでいる					
25	散歩の時は随時、人数確認をしている					
26	歩道に危険な物がないか注意している					
27	散歩の時、目的地が近づくとき早く行こうとして、走ったり早足になり危険であることを、職員は理解している					
28	前を見て歩くよう促し、列全体のスピードを考え誘導している					
29	公園では保育所の施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している					
30	室内では衝突を起こしやすいので、人数やルールを考えて遊びを工夫している					
31	三輪車等は、バランスを崩して転倒しやすいことを理解して遊ばせている					

【職員が子どもと関わる時に留意する内容】

1	室内・室外で角や鋭い部分には必要に応じてガードをすると共に、子どもに危険なことを教えている					
2	すべり台やブランコ、ジャングルジム等、遊具の遊び方のきまりを教え、守って遊んでいるか注意している					
3	おもちゃを持ったり、かばんをかけたまま固定遊具で遊ぶことがないように教えている					
4	すべり台の上でふざけたり、逆さ登りをするのは危険なことを教えている					
5	揺れているブランコには近づかないように教えている					
6	シャベル等を取り合ったり、長い物を振り回したりすると危険なことを教え、砂場での安全な遊び方を指導している					
7	テラス等は砂で滑りやすいため、注意するよう教えている					
8	鉄棒の近くで遊ぶと勢いあまって衝突することがあることを理解し、注意しながら遊ばせている					
9	フェンスや門等危険な高いところに登らないように指導している					
10	子ども同士手をつないでいる時、引っ張り合って肘内障になることがあることを教え、注意して遊ばせている					
11	両手に玩具を持つ等手がふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいことを教え、注意している					
12	椅子に立ち上がったたり、揺らして遊ぶことがないよう正しい使用方法を教えている					
13	ハサミの使用時、職員は側につき、座って使うように教えている					
14	箸や歯ブラシ等をくわえて走り回ることがないように教え、注意している					

15	食べ物の形や、大きさ、量等を考えて、詰まらせることのないよう注意して食べさせている					
16	小石、ビーズ、粘土等小さい物を口や鼻、耳に入れて遊んでいないか注意している					
17	先の尖った物を持っている時は、人に向けたり、振り回したりしないように指導している					
18	トイレや手洗い場では走らないように教えている					
19	小動物に触れる時は、関わり方や危険について教え、側について注意している					
20	道路への飛び出しは危険なことを教え、注意している					
21	手をつないで走ると、転んだ時に手がつきにくいことを教えながら注意して遊ばせている					
22	石を人や物に向かって投げてはいけないことを指導している					
23	犬等の動物との関わり方や噛んだりすることもあることを教え、危険がないように注意している					
24	蜂に近づいたり、触ったりすると危険であることを教えている					

4歳児クラス用 事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
2 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
3 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
4 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()

【職員が留意する内容】		1	2	3	4	備考
1	子どもの遊んでいる遊具や周りの安全を確認している					
2	ロッカーや棚は倒れないように、転倒防止策を行っている					
3	運動用具を使用した後はそのままにせず、必ず片付けている					
4	室内は整理整頓を行い、使用した物はすぐに収納場所に片付けている					
5	ハサミは正しい使い方をさせ、使用したら必ず片付けている					
6	暖房器具は子どもが直接触れてやけどをしないように対策している					
7	床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
8	薬や洗剤、消毒液は子どもの手の届かないところに置いている					
9	散歩はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意している					
10	年齢に合った遊具か、雨等で滑りやすくなっていないか等点検して遊ばせている					
11	ジュースの空き缶やタバコ等危険な物がある時は、触らないように指導し、危険な物に気づいたら片付けている					
12	受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
13	延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる(クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある)					
14	固定遊具で遊ぶ時は、横に付き添い、危険のないようにしている					
15	フードやひも付き衣服は引っかかる危険があるため園では着用しないよう保護者に協力を求めている。					
16	園庭に耳や鼻に入れやすい大きさのものや危険なものが落ちていないか常に注意している					
17	園庭の状況に合った遊び方を選び、職員は子どもの行動を常に確認できるようにしている					
18	子どもが大きな物や重い物を持つ時は、足元の安全に気を配っている					
19	靴は足に合っているか、いろいろな活動に適しているか確認している					
20	午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を十分に把握している					

21	子どもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
22	肘内障を起こしやすい子どもは、職員全員が把握している					
23	水遊びをする時は、必ず職員が二人以上付き添い、目を離さず溺水を防いでいる					
24	散歩の時は随時、人数確認をしている					
25	歩道に危険な物がないか注意している					
26	散歩の時、目的地が近づくと早く行こうとして、走ったり早足になり危険であることを、職員は理解している					
27	前を見て歩くよう促し、列全体のスピードを考え誘導している					
28	公園では保育所の施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している					

【職員が子どもと関わる時に留意する内容】

1	室内・室外の角や鋭い部分にはガードをすると共に、子どもに危険なことを教えている					
2	すべり台やブランコ、ジャングルジム等、遊具の遊び方のきまりを教え、守って遊んでいるか注意している					
3	おもちゃを持ったり、かばんをかけたまま固定遊具で遊ぶことがないように教えている					
4	すべり台の上でふざけたり、逆さ登りをするのは危険なことを教えている					
5	揺れているブランコには近づかないように教えている					
6	登り棒の登り方、降り方を教え、付き添い、落下等がないようにしている					
7	シャベル等を取り合ったり、長い物を振り回したりすると危険なことを知らせ砂場での安全な遊び方を教えている					
8	テラス等は砂で滑りやすいため、注意するよう教えている					
9	鉄棒の近くで遊ぶと勢いあまって衝突することがあることを理解し、注意しながら遊ばせている					
10	三輪車の足掛け乗りやスクーターはスピードがつくと転倒しやすいことを教え、注意して遊ばせている					
11	フェンスや門等、危険な高いところに登らないように指導している					
12	室内では衝突を起こさないように見守り、人数やルールを考えて遊ぶように教えている					
13	子ども同士手をつないでいる時、引っ張り合って肘内障になることがあることを教え、注意して遊ばせている					
14	両手に玩具を持つ等手がふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいことを教え、注意している					
15	椅子に立ち上がったたり、揺らして遊ぶことがないよう正しい使用方法を教えている					

16	箸や歯ブラシ等をくわえて走り回ることがないように注意している					
17	給食で魚を食べる時は骨に注意するように伝え、食べ方を指導している					
18	小石、ビーズ、粘土等小さい物を口や鼻、耳に入れて遊んでいないか注意している					
19	先の尖った物を持っている時は、人に向けたり、振り回したりしないように指導している					
20	トイレや手洗い場では走らないように教えている					
21	小動物に触れる時は、関わり方や危険について教え、側について注意している					
22	道路への飛び出しは危険なことを教え、注意している					
23	手をつないで走ると、転んだ時に手がつきにくいことを教えながら注意して遊ばせている					
24	下り坂は勢いがつくため注意するように子どもへ教えている					
25	石を人や物に向かって投げてはいけないことを指導している					
26	犬等の動物との関わり方や噛んだりすることもあることを教え、危険がないように注意している					
27	蜂に近づいたり、触ったりすると危険であることを教えている					

5歳児クラス用 事故防止チェックリスト

◎ 必ずしている
○ だいたいしている
△ あまりしていない
× していない

1 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
2 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
3 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()
4 記入日 平成 年 月 日
記入者名 ()

【職員が留意する内容】

	1	2	3	4	備考
1 子どもの遊んでいる遊具や周りの安全を確認している					
2 ロッカーや棚は倒れないように、転倒防止策を行なっている					
3 運動用具を使用した後はそのままにせず、必ず片付けている					
4 室内は整理整頓を行い、使用した物はすぐに収納場所に片付けている					
5 ハサミは正しい使い方をさせ、使用したら必ず片付けている					
6 暖房器具は子どもが直接触れてやけどをしないように対策している					
7 床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしている					
8 薬や洗剤、消毒液は子どもの手の届かないところに置いている					
9 散歩はあらかじめ下見を行い、目的地や歩道に危険な物がないか注意している					
10 年齢に合った遊具か、雨等で滑りやすくなっていないか等点検して遊ばせている					
11 ジュースの空き缶やタバコ等危険な物がある時は、触らないように指導し、危険な物に気づいたら片付けている					
12 受け入れ時は、健康状態について保護者から丁寧に確認し、職員間で情報共有している					
13 延長保育等担当が変わるときは、職員間で確実にそれを引き継いでいる(クラスノート等確実に引き継ぐ方法がある)					
14 固定遊具で遊ぶ時は、横に付き添い、危険のないようにしている					
15 フードやひも付き衣服は引っかかる危険があるため園では着用しないよう保護者に協力を求めている。					
16 園庭に耳や鼻に入れやすい大きさのものや危険なものが落ちていないか常に注意している					
17 園庭の状況に合った遊び方を選び、職員は子どもの行動を常に確認できるようにしている					
18 子どもが大きな物や重い物を持つ時は、足元の安全に気を配っている					
19 靴は足に合っているか、いろいろな活動に適しているか確認している					
20 午睡後、十分に覚醒しているか、個々の状態を十分に把握している					

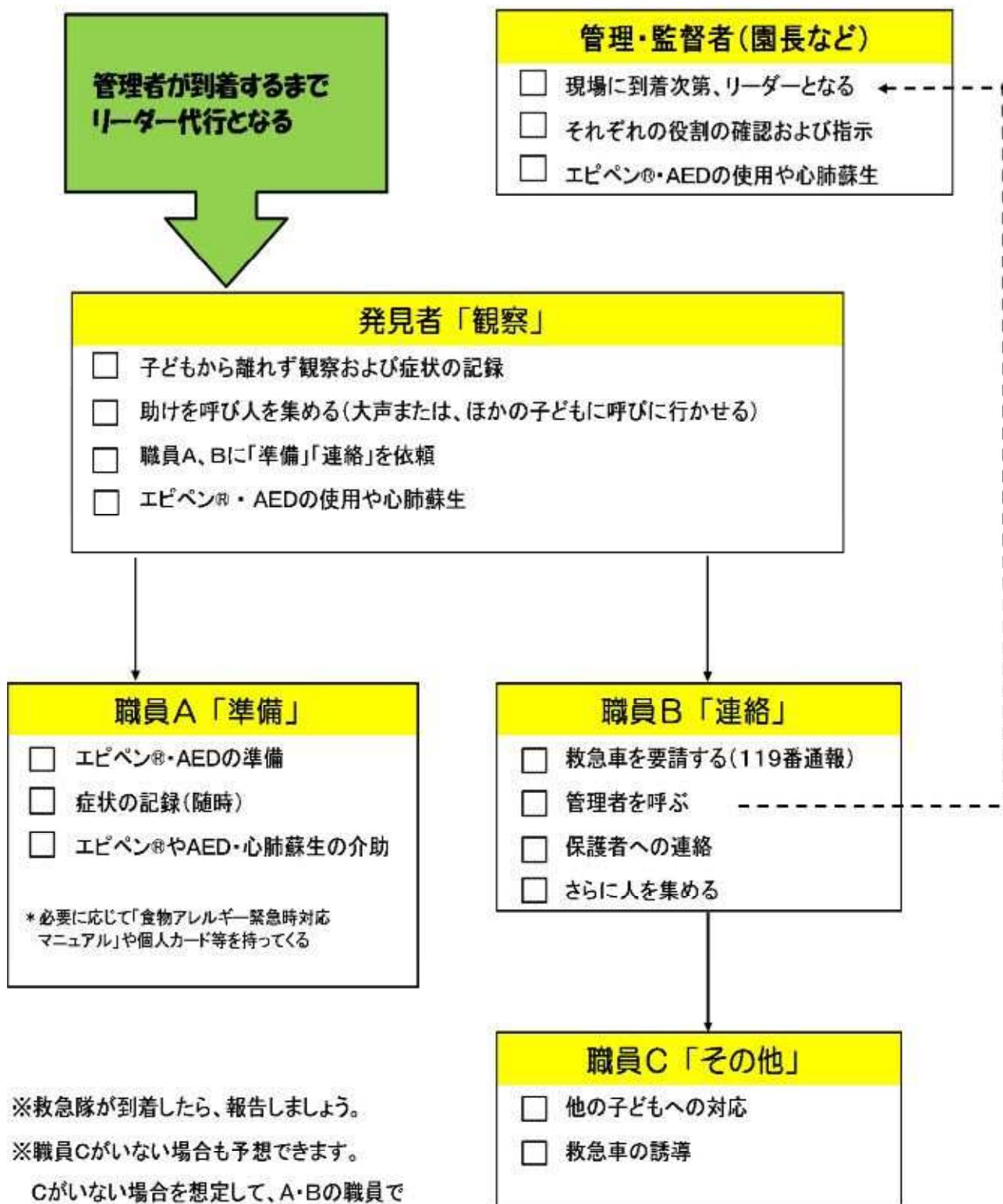
21	子どもの腕を、強く引っ張らないように注意している					
22	肘内障を起こしやすい子どもは、職員全員が把握している					
23	水遊びをする時は、必ず職員が二人以上付き添い、目を離さず溺水を防いでいる					
24	散歩の時は随時、人数確認をしている					
25	歩道に危険な物がないか注意している					
26	散歩の時、目的地が近づくとき早く行こうとして、走ったり早足になり危険であることを、職員は理解している					
27	前を見て歩くよう促し、列全体のスピードを考え誘導している					
28	公園では保育所の施設に比べ安全面が十分でないことを理解し、慎重に対応している					

【職員が子どもと関わる時に留意する内容】

1	室内・室外の角や鋭い部分にはガードをすると共に、子どもに危険なことを教えている					
2	縄跳びの縄は使用後片付けるように教えている					
3	すべり台やブランコ、ジャングルジム等、遊具の遊び方のきまりを教え、守って遊んでいるか注意している					
4	おもちゃを持ったり、かばんをかけたまま固定遊具で遊ぶことがないように教えている					
5	すべり台の上でふざけたり、逆さ登りをするのは危険なことを教えている					
6	揺れているブランコには近づかないように教えている					
7	登り棒の登り方、降り方を教え、付き添い、落下等がないようにしている					
8	シャベル等を取り合ったり、長い物を振り回したりすると危険なことを知らせ砂場での安全な遊び方を教えている					
9	テラス等は砂で滑りやすいため、注意するよう教えている					
10	鉄棒の近くで遊ぶと勢いあまって衝突することがあることを理解し、注意しながら遊ばせている					
11	三輪車の足掛け乗りやスクーターはスピードがつくと転倒しやすいことを教え、注意して遊ばせている					
12	フェンスや門等危険な高いところに登らないように指導している					
13	室内では衝突を起こさないように見守り、人数やルールを考えて遊ぶように教えている					
14	子ども同士手をつないでいる時、引っ張り合って肘内障になることがあることを教え、注意して遊ばせている					
15	両手に玩具を持つ等手がふさがっている時は、バランスを取りにくく、転びやすいことを教え、注意している					
16	椅子を後ろに揺らしたり、後ろ向きに座らないよう、正しい使用法を教え、注意している					

17	箸や歯ブラシ等をくわえて走り回ることがないように指導している					
18	給食で魚を食べる時は骨に注意するように伝え、食べ方を指導している					
19	調理活動中に包丁を使用する時は危険なことを教え、常に付き添い注意している					
20	先の尖った物を持っている時は、人に向けたり、振り回したりしないように指導している					
21	トイレや手洗い場では走らないように教えている					
22	小動物に触れる時は、関わり方や危険について教え、側について注意している					
23	道路への飛び出しは危険なことを教え、注意している					
24	手をつないで走ると、転んだ時に手がつきにくいことを教えながら注意して遊ばせている					
25	下り坂は勢いがつくため注意するように子どもへ教えている					
26	石を人や物に向かって投げてはいけないことを指導している					
27	犬等の動物との関わり方や噛んだりすることもあることを教え、危険がないように注意している					
28	蜂に近づいたり、触ったりすると危険であることを教えている					

緊急時の役割分担



※救急隊が到着したら、報告しましょう。

※職員Cがいない場合も予想できます。

Cがいない場合を想定して、A・Bの職員で対応できるようにしましょう。



病院緊急連絡先



救 急 車 ... 119

保育園の住所

電話番号

	病院名	電話番号	診療時間・休診日
小児科			
整形外科			
歯 科			
眼 科			
内 科			
皮膚科			
耳鼻咽喉科			
脳外科			
総合病院			

※ 休診日の確認と、その時の対応を事前に確認しておきましょう

※ 迷った時は、受診しましょう

タクシー会社



〇〇〇-〇〇〇〇



「救急車の呼び方」 119番通報



火事の時
「火事です」

救急の時
「救急です」

現在の住所を伝える

新潟市 区

建物名

火災の状況を伝える
「どこが」

燃えています

病気、けがの状況を伝える

「いつ」
「どこで」
「だれが」
「どうして」
「現在どのような状態か」

*エビベン®の処方やエビベン®の使用の有無を伝える

目標となるものを伝える

近くに

があります

連絡者名 / 連絡先を伝える

通報している人の名前

119番通報後も
連絡可能な電話番号

* 向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある。
通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく
その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

設置者名		災害報告書				※受付日 平成 年 月 日	
						※受付番号	
被災児等	フリガナ	年 齢		保護者等 (受給者) 氏 名			
	氏 名	生年月日					
災害発生 の 場 合	日時					時期	
	場所						
	場合						
	運動指導					体育・遊戯施設	
	負傷 部 位						
	疾病 種 類						
災害発生 の 状 況	概 要						
	応急処置や医療機関への移送など災害発生に対して幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等のとった措置状況						
	その他参考となる事項						
上記のことは事実と相違のないことを証明します。 幼稚園、幼保連携型認定こども園、 保育所等名及び所在地 園長(所長)氏名							
※ 決 定							

- (注) 1 この災害報告書は、幼稚園(特別支援学校の幼稚部を含む。)、幼保連携型認定こども園又は保育所等の幼児等の災害の場合に使用すること。
- 2 この災害報告書は、第1回目の医療費の請求を行うとき、医療等の状況(訪問看護、治療用器具若しくは生血又は調剤を要した場合は更に訪問看護明細書、治療用器具・生血明細書又は調剤報酬明細書を添付する。)とともに1件ごとに上部をつづり込み、医療費支払請求書に添付すること。
- 3 ※印は、記入しないこと。
- 4 この報告書の用紙は、日本工業規格A4縦型とすること。

報告書番号

様式 2

園コード：

保育園

【 受 診 結 果 】					
診断名		医療機関での 診療治療の内容			
部 位	☐ 頭 ☐ 上肢（上腕 肘 前腕 手関節 手指） ☐ 下肢（もも 膝 下腿部 足 指） ☐ 顔面（額 眼 頬 耳 鼻 口 歯 あご） ☐ 体幹（くび 肩 胸 腹 背 腰 おしり）				
治療期間	☐ 治療不要 ☐ 即日治療完了 ☐ 通院（約 日位） ☐ 入院（約 日位） ☐ その他（ ）				
医療機関名	医院 ・ 病院				
診療科名	☐ 整形外科 ☐ 外科 ☐ 歯科 ☐ 皮膚科 ☐ 眼科 ☐ 耳鼻科 ☐ 小児科 ☐ 脳外科 ☐ その他（ ）				

- ・なぜ事故は起こったか（原因）

- ・なぜ、そのような状況になったのか（原因についての分析）

- ・ どうすれば事故は防ぐことができたか（具体的な防止策）

資料編・事故報告様式

事故の経過報告書 ※原則、事故当日に提出 第 報 月 日 ()	
園コード _____ 区 園名 _____ 報告者 _____	
事故発生日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ()	
※FAX の場合、名前・生年月日は無記入	
氏名 _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日生 男・女 (満 _____ 歳)	
時 間	事故発生の経過と対応（事故発生時の状況が分かるよう位置関係等を記載）

園児の事故報告書

区

受付番号
※区で記載

全項目に記入してください。該当する番号には○をつけてください。

年齢・性別	(事故時の満年齢を記載してください。)	報告年月日	平成	年	月	日
	男 ・ 女 才	園コード				
種別	1. 通常保育 (※太枠内の記載は必要ありません)	施設名				
	2. 一時保育 3. 支援センター (※太枠記載あり)					

※ 一時保育・支援センターの事故は、太枠内も含め全て記載し、連絡便で区役所指導保育士へ送付してください。

※保護者名	※カタカナ					
		※園児名				
		生年月日	平成	年	月	日生
	※住 所	新潟市				
		連絡先 ()				

発生日時	平成 年 月 日 (曜日) 午前 ・ 午後 時 分 頃				
診 断 名		発生場所	1. 保育室 2. 遊戯室 3. 廊下 4. 昇降口、玄関 5. 階段 6. ベランダ 7. トイレ 8. 園庭 9. プール 10. 園外 11. その他()		
負傷等の種類	1. 骨折 2. 捻挫 3. 脱臼 4. 挫傷・打撲(歯等も含む) 5. 靱帯損傷・断裂 6. 挫創 7. 切創 8. 刺創 9. 割創 10. 裂創 11. 擦過傷 12. 熱傷・火傷 13. 歯牙破折 14. その他()				
けがの部位 () 内の具体例をみて、該当する番号に○をつけてください。	1. 頭 2. 顔面 (額 眼 頬 耳 鼻 口 歯 あご) 3. 体幹 (くび 肩 胸 腹 背 腰 おしり) 4. 上肢 (上腕 肘 前腕 手関節 手指) 5. 下肢 (もも 膝 下腿部 足 指)				
事故発生時の状況					
園側がとった処置					
医療機関での診察治療の状況					
治療期間	1. 治療不要 2. 即日治療完了 3. 要通院 (約 日位) 4. 要入院 5. その他 ()				
医療機関名	医院・病院				
(診療科名)	1. 整形外科 2. 外科 3. 歯科 4. 皮膚科 5. 眼科 6. 耳鼻科 7. 小児科 8. 脳外科 9. その他()				
再発防止の為の具体策					

教育・保育施設等 事故報告様式 (Ver.2) *水色枠内はプルダウンメニューから選択してください【別紙】

事故報告日				報告回数					
認可・認可外				施設・事業種別					
自治体名				施設名					
所在地				開設(認可)年月日					
設置者 (社名・法人名・自治体名等)				代表者名					
在籍子ども数		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	合計
教育・保育従事者数		名		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士		名			
うち常勤教育・保育従事者		名		うち常勤保育教諭・幼稚園教諭・保育士		名			
保育室等の面積		乳児室	m ²	ほふく室	m ²	保育室	m ²	遊戯室	m ²
			m ²		m ²		m ²		m ²
発生時の体制		名		教育・保育従事者		名		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士	
		名		名		名		名	
		名		名		名		名	
異年齢構成の場合の内訳		0歳	名	1歳	名	2歳	名	3歳	名
		4歳	名	5歳以上	名	学童	名		
事故発生日				事故発生時間帯					
子どもの年齢 (月齢)	所属クラス			入園・入所年月日					
子どもの性別				事故誘因					
事故の転帰				(負傷の場合)負傷状況					
(死亡の場合)死因				(負傷の場合)受傷部位					
病状・死因等 (既往歴)		【診断名】							
		【病状】							
		【既往症】		病院名					
特記事項 (事故と因子関係がある場合に、身長、体重、既往歴・持病・アレルギー、発育・発達状況、発生時の天候等を記載)									
発生場所									
発生時状況									
発生状況 (当日登園時からの健康状況、発生後の処置を含め、可能な限り詳細に記入。第1報においては可能な範囲で記入し、2報以降で修正すること)									
当該事故に特徴的な事項									
発生後の対応 (報道発表を行う(行った)場合にはその予定(実績)を含む)									

※ 第1報は赤枠内について報告してください。第1報は原則事故発生日(遅くとも事故発生翌日)、第2報は原則1か月以内程度に行うとともに、状況の変化や必要に応じて追加報告してください。また、事故発生の要因分析や検証等の結果については、でき次第報告してください。

※ 第2報報告に当たっては、記載内容について保護者の了解を得た後に、各自治体へ報告してください。

※ 記載欄は適宜広げて記載してください。

※ 直近の指導監査の状況報告を添付してください。

※ 発生時の状況図(写真等を含む。)を添付してください。なお、遊具等の器具により発生した場合には、当該器具のメーカー名、製品名、型式、構造等についても記載してください。

教育・保育施設等 事故報告様式【事故再発防止に資する要因分析】				
要因	分析項目		記載欄【選択肢の具体的内容を記載】	
ソフト面 (マニュアル、研修、職員配置等)	事故予防マニュアルの有無		(具体的内容記載欄)	
	事故予防に関する研修		実施頻度()回/年	(具体的内容記載欄)
	職員配置		(具体的内容記載欄)	
	その他考えられる要因・分析、特記事項			
	改善策【必須】			
ハード面 (施設、設備等)	施設の安全点検		実施頻度()回/年	(具体的内容記載欄)
	遊具の安全点検		実施頻度()回/年	(具体的内容記載欄)
	玩具の安全点検		実施頻度()回/年	(具体的内容記載欄)
	その他考えられる要因・分析、特記事項			
	改善策【必須】			
環境面 (教育・保育の状況等)	教育・保育の状況			
	その他考えられる要因・分析、特記事項			
	改善策【必須】			
人的面 (担当保育教諭・幼稚園教諭・保育士、保育従事者、職員の状況)	対象児の動き		(具体的内容記載欄)	
	担当職員の動き		(具体的内容記載欄)	
	他の職員の動き		(具体的内容記載欄)	
	その他考えられる要因・分析、特記事項			
	改善策【必須】			
その他	その他考えられる要因・分析、特記事項			
	改善策【必須】			
【所管自治体必須記載欄】 事故発生の要因分析に係る自治体コメント ※事業所(者)は記載しないでください。				

《事故報告様式送付先》

- 幼保連携型認定こども園、企業主導型保育事業について
 - ・内閣府 子ども・子育て本部 (FAX: 03-3581-2808 Email: kodomokosodate1@cao.go.jp)
- 幼稚園の教育活動中の事故について
 - ・文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 (FAX: 03-6734-3794 Email: anzen@mext.go.jp)
- その他、幼稚園通園中や園における製品に関する事故、園の安全管理に関する事故について
 - ・文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 (FAX: 03-6734-3794 Email: anzen@mext.go.jp)
- 認可保育所、保育所型認定こども園、地方裁量型認定こども園、地域型保育事業、一時預かり事業(認定こども園(幼保連携型、幼稚園型)、幼稚園で実施する場合以外のもの)、病児保育事業(認定こども園(幼保連携型、幼稚園型)、幼稚園で実施する場合以外のもの)、地方単独保育施設、その他の認可外保育施設、認可外の居宅訪問型保育事業について
 - ・厚生労働省雇用均等・児童家庭局 保育課 (FAX: 03-3595-2674 Email: hoikuanzen@mhlw.go.jp)
- こちらへも報告してください
 - ・消費者庁消費者安全課 (FAX: 03-3507-9290 Email: i.shouhisha.anzen@caa.go.jp)